

おし  
風

## 声上げる「森の番人」

都市近郊の平地林では世界有数の規模を誇る道立野幌森林公園(二千五百一拾)。札幌、江別、北広島市の三市にまたがるその公園を、市民の側から守るグループがある。江別市民有志でつくる「フォーラム野幌の森」。森の異変に耳を傾け、世間に広く問題を提起する「森の番人」として、幅広く活動を展開している。

(札幌圏部 依積田雅史)

白銀の世界に似つかわしくない光景が広がっていた。今月十五日、野幌森林公園。洗濯機に車のシート、子供のおもちゃ。「森の中心部にこんなものがあるなんて異常ですよ」。フォーラム野幌の森代表、五十嵐敏文さん(四九)は、散乱する大量のごみに嘆いた。

同公園は五百種を超す植物が自生し、天然記念物のクマガラも生息する自然の宝庫。

ところが、ここ数年、ごみの不法投棄が目立ち始めた。一昨年施行の家電リサイクル法や隣接する札幌市の大型ごみ収集有料化で、費用負担増を嫌っての投棄が増えたとみられている。

なぜ森の奥深くにまでごみが捨てられるのか。同公園は中心部を延長三・五キロの江別市道「中央道路」が東西に貫いている。札幌と江別を抜ける近道として車が通行し、森の奥へ簡単に入り込めるためだ。

「車の通行を禁止できない。森の奥へ簡単に入り込めるためだ。」

その成果もあって〇一年十月、国が農道計画の中止を表明。「公共事業削減など時代の流れも後押ししたと思う。うれしかった。声を上げてよかったなどつくづく思う」。事務局の田村敏さん(六八)は振り返る。その自信が活動を支えている。

会員は男女二十人。身近にある「野幌の森」を愛し、守ろうという思いで集まった。会社員や大学生、教師らさまざま。何か問題があれば、みんなで話し合い、事態打開へと動きます。

今後課題は山積みだ。石狩森林管理署が現在、公園内の倒れる危険性のある老木の伐採を進めているが、「必要

フォーラム  
野幌の森

## 不法投棄根絶へ行動

のか。不法投棄だけではない。森が分断され、小動物の移動や植生を破壊してしまいかねない」と五十嵐さんは指摘する。二〇〇一年から中央道路

みんな力を合わせよう。地元の自然保護グループが集まって会を発足。フォーラムを相次いで開催。国に要望を続け、市民に問題を提起した。

〇〇年九月から国が始めた公園内の遊歩道整備事業。遊歩道に砂利を敷く工事だったが、会員の学生から「希少植物が重機で踏みつけられるな

最小限の伐採を」と求める。五十嵐さんは「危険は分るが、自然はリスクがある。老木が腐って虫がわき、キツツキ類の餌場にもなる。いろいろな人に考えてもらいたい問題」と話す。

周辺環境の開発が進み、孤島化しつつある野幌の森。公園を利用するだけでなく、守るということに関心をもってもらいたい。五十嵐さんらメンバーの思いは一つだ。



不法投棄されたごみに見入るフォーラム野幌の森のメンバー

△メモ▽事務局は江別市大森の田村さん宅。会合は年6回程度だが、必要に応じて随時開いている。会費一口千円から。問い合わせは田村さん ☎011・3386・4516へ。